

令和6年度入学生対象

別記様式1

主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

開設学部（学科）名〔医学部保健学科 作業療法学専攻〕

プログラムの名称（和文） （英文）	作業療法学プログラム Program for Occupational Therapy
1. 取得できる学位 学士（保健学） 147単位以上（教養教育科目38単位以上、専門基礎科目45単位以上、専門科目64単位）	
2. 概要 保健学科作業療法学専攻が提供する教育プログラムは、学生が、将来、医学・医療・保健・福祉等の分野で作業療法士として貢献し、作業療法学の発展に寄与できるよう、卒業時に学習の成果（項目8）で挙げている基本的知識、基本的技能および基本的態度・習慣の全項目を習得することを目標とする。	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 作業療法学プログラムでは、専門職の作業療法士としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。そのため、本プログラムでは、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断能力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指した教養教育課程の定める基準となる単位数を修得し、且つ以下の能力を身につけ、専門教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（保健学）」の称号を授与する。 1) 作業的存在としての人間を探究し、ひとが作業を通して健康で幸福な生活を行うための種々の理論や技術を獲得している。 2) 作業療法の実践に必要な基本的知識と技能を修得することに加え、作業遂行の課題を的確に捉え、その解決のために広範な知識を統合できる能力を身につけている。 3) 専門職として、人々の権利や主体性を尊重し、臨床における倫理的、誠実的、共感的、献身的な態度を有し、他職種との協力や専門職発展への献身などにも対応できる能力を身につけている。 4) 国際社会および地域社会の変化に対して対応できる、また常に科学的な思考を持って臨床場面で生じる課題と向き合う基礎的な能力を備えている。 5) 変化する社会的ニーズを的確に捉え、生涯にわたって自らの知識、技術、態度を評価し、自ら学び続ける創造的な姿勢と習慣を身につけることができる。	
4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 作業療法学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。 ・1年次には、教養教育科目を通して教養、基礎学力の醸成を行うと同時に、「解剖学」「生理学」「リハビリテーション科学入門」「リハビリテーション概論」などの専門基礎科目、および「作業療法概論」「基礎作業学」などの専門科目を早期から開講し、作業療科学的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探究の基本姿勢を育む。AO入試制度（大学院進学型）で入学した学生には、後期より研究プロジェクト演習Ⅰの履修を課し、早期から研究室に配置することで、研究への関心を涵養する。 ・2年次には、「解剖学実習」「生理学実習」「基礎運動学」「リハビリテーション整形外科学」「リハビリテー	

ション精神医学」「リハビリテーション神経内科学」など医科学系の講義と実習を開講し、自然科学領域の基礎知識と技術を発展させる。また、後期に地域臨床実習を設置し、在宅生活を送る対象者に関わる作業療法実務の実際を学ぶ機会を提供する。さらに、研究プロジェクト演習ⅡまたはTOEIC 特別講義に参加し、早期から大学院進学を意識した研究活動に、あるいは留学を意識した英語力の向上に自主的に取り組むように促す。

・3年次には、身体障害作業療法、精神障害作業療法、発達障害作業療法、老年期障害作業療法、および日常生活活動評価などの専門領域科目を開講し、作業療法の実施に必要な情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度について指導する。また、後期に評価実習を設定し、身体又は精神障害作業療法における評価技術を学ぶ機会を提供する。さらに、国際、地域、脳科学に特化した専門性が高い選択科目を設定する。

・4年次には、長期臨床実習を設定し、3年次までの教育課程で学んだ作業療法の実施に必要な知識、技能、態度を、実習施設において指導を受けながら実践する機会を提供する。また、実習を通して対象者や家族、他職種とのコミュニケーションの重要性についても認識を深め、保健・医療・福祉に関わる作業療法の専門職としての資質と自覚を高める。また、3年次から開始した卒業研究を完成することで、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身に付け、作業療法学の学問としての意義と重要性についても学ぶ。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）から作業療法学プログラムは開始される。学生は、入学時に次に定める高校までの履修科目に習熟していることを想定している。ヘルスサイエンスのための基盤数学、初修物理学、初修生物学の単位を修得すべき者は保健学科において指定する。光り輝き入試（大学院進学型）で選抜された学生は、学士課程卒業に続いて大学院博士課程前期への進学を想定している。広島大学在学の全学の学生に対しては転学部または転学科の規程に基づき別途定める。本プログラムの定員（受け入れ上限数）は30名である。

6. 取得可能な資格

作業療法士国家試験受験資格

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

○知識・理解

1. 人体の構造と機能に関する知識・理解
2. 病因と病態に関する知識・理解
3. 保健・医療システムに関する知識・理解
4. 作業療法の学問的背景に関する知識・理解
5. 外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解

○能力・技能

1. 作業療法の学問的背景に基づき、作業的存在としての人間を探究する能力・技能
2. 作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能
3. 作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能
4. 他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能
5. 作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能
6. 作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能

○総合的な力

1. 保健医療における倫理的判断に基づいた行動力
2. 医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力
3. 医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度
4. 科学的かつ創造的な問題解決能力

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

○位置づけ（目的）

それまでに学習した作業療法の総ての知識を応用し、臨床（社会）への貢献について考える（作業療法の臨床的意義の吟味）。あわせて科学的根拠に基づいた問題解決能力を習得し、専門職の質の向上を図る態度と技能を養う（専門性の確立）。

○概要

①作業療法の臨床的意義の吟味

自ら設定したテーマについて文献検索活動を通して、作業療法及び臨床における意義を吟味する。

②科学的根拠に基づいた研究活動の体験・習得

自らの研究テーマに沿って、研究計画立案、研究実施、論文作成、口頭発表という一連の研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、態度、技能を習得する。

○配属時期と配属方法

3年次後期より仮配属し、4年次進級時に本配属となる。配属方法は学生からの研究登録票を基に、学生提出の研究テーマと教員の専門分野を考慮して決定される。

10. 責任体制

P D C A 責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

作業療法学専攻会議、保健学科会議とその構成員により実施されている。

教養教育科目履修基準表

医学部保健学科作業療法学専攻

区 分	科 目 区 分			要修得 単位数	授 業 科 目 等	単位数	履修区分	履 修 年 次 (注1)									
								1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
								前	後	前	後	前	後	前	後		
教 養 教 育 科 目	平 和 科 目			2		2	選択必修			○							
	大 学 基 礎 教 育 科 目	大 学 教 育 入 門			2	大学教育入門	2	必 修	○								
		教 養 ゼ ミ			2	教養ゼミ	2	必 修	○								
		展 開 ゼ ミ			(0)		1	自由選択	○	○							
	共 通 科 目	領 域 科 目			8	人文社会科学系科目群から2科目4単位以上 自然科学系科目群から2科目4単位以上		1又は2	選択必修	○	○						
		外 国 語 科 目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎Ⅰ		1	必 修	○							
				コミュニケーション基礎Ⅱ		1		○									
				コミュニケーションⅠ	2	コミュニケーションⅠA		1	必 修	○							
					コミュニケーションⅠB		1	○									
			コミュニケーションⅡ	2	コミュニケーションⅡA		1	必 修		○							
				コミュニケーションⅡB		1			○								
			初修外国語（注2） （ドイツ語、フランス語、中国語、のうちから1言語選択）	(0)	ベーシック外国語Ⅰ		1	自由選択	○								
					ベーシック外国語Ⅱ		1		○								
		ベーシック外国語Ⅲ			1		○										
		ベーシック外国語Ⅳ			1		○										
		情報・データサイエンス科目 (注3)			2	情報・データ科学入門		2	必修	○							
					2	ゼロからはじめるプログラミング		2	選択必修		○						
						データサイエンス基礎		2				○					
		健 康 ス ポ ー ツ 科 目			2	健康スポーツ科学		2	必修	○							
		社 会 連 携 科 目			(0)		1又は2	自由選択	○	○							
	基 盤 科 目				4	医療従事者のための心理学（注4）		2	必 修		○						
						統計学		2			○						
					2	初修物理学		2	選択必修 (注5)	○							
						初修生物学		2		○							
						ヘルスサイエンスのための基盤数学		2		○							
計		必修・選択必修科目小計			32												
	自由選択科目小計			6	(注6)												
	教養教育科目合計			38													

注 1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注 2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ」，「オンライン英語演習Ⅱ」，「オンライン英語演習Ⅲ」：各1単位（同一科目を重複して単位を修得することは不可）の履修により修得した単位を，卒業に必要な英語の単位（6単位）に代えることが可能である。また，外国語技能検定試験，語学研修による単位認定制度もある。詳細は，学生便覧の教養教育の外国語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注 3：「情報・データ科学入門」の単位を修得できなかった場合のみ，「ゼロからはじめるプログラミング」「データサイエンス基礎」の修得した単位のうち2単位を，「情報・データ科学入門」の単位として卒業に必要な単位に算入できる。

注 4：「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ，「心理学概論A」又は「心理学概論B」の履修により修得した単位を，「医療従事者のための心理学」の単位の修得として卒業に必要な単位（2単位）に算入することが可能である。

注 5：「初修物理学」，「初修生物学」，「ヘルスサイエンスのための基盤数学」については，保健学科において指定された科目を履修すること。2科目以上指定された場合はすべて履修すること。但し，選択必修科目の卒業要件単位として算入されるのは1科目とする。

注 6：自由選択科目は，展開ゼミ，要修得単位数を超えて修得した領域科目，初修外国語，情報・データサイエンス科目，社会連携科目，履修基準表に記載されているもの以外の基盤科目の中から合計6単位以上を修得すること。「初修物理学」「初修生物学」「ヘルスサイエンスのための基盤数学」のいずれの科目も、自由選択科目の単位として算入されないので注意すること。

作業療法学専攻プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果			評価基準		
評価項目			極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1)	人体の構造と機能に関する知識・理解	該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明および考察ができる。	該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明および考察ができる。	該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、基本的な説明ができる。
	(2)	病因と病態に関する知識・理解			
	(3)	保健・医療システムに関する知識・理解			
	(4)	作業療法の学問的背景に関する知識・理解			
	(5)	外国語によるコミュニケーションに関する知識・理解			
能力・技能	(1)	作業療法の学問的背景に基づき、作業的存在としての人間を探究する能力・技能	講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明および考察ができる。	講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明および考察ができる。	講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、基本的な説明ができる。
	(2)	作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能			
	(3)	作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能			
	(4)	他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能			
	(5)	作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能			
	(6)	作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能			
総合的な力	(1)	保健医療における倫理的判断に基づいた行動力	臨床実践の場において保健医療の倫理に基づく適切な判断および行動ができる。	保健医療の倫理に基づいた適切な判断ができる。	保健医療の倫理的判断について理解できる。
	(2)	医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む積極的な態度が日常的に見られる。	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む場面が見られる。	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む姿勢・意欲が見られる。
	(3)	医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度	医療チームの一員として、他職種と協調的な関係を構築し、積極的にコミュニケーションを取ることができる。また、チームのルールやマナーを守りながら行動できる。	医療チームの一員として、他職種と協調的な関係を構築できる。また、チームのルールやマナーを守りながら行動できる。	医療チームの一員として、他職種と協調的な態度で接することができる。
	(4)	科学的かつ創造的な問題解決能力	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察できる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。 7. 得られた結果から新たな仮説を立てられる。	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察できる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的な考察ができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムは、医学・保健・医療・福祉等の分野において作業療法士として貢献するための専門的知識や技術はもとより、作業療法学の発展に寄与するための幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断能力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けるしなやかで創造的な人材を育成するため、1年次は東千田キャンパスならびに西条キャンパスで他学部の学生と共に教養教育科目を学ぶ。

作業療法学プログラムカリキュラムマップ

[illegible]

学習の成果		1年				2年				3年				4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
評価項目		第1チーム	第2チーム	第3チーム	第4チーム	第1チーム	第2チーム	第3チーム	第4チーム	第1チーム	第2チーム	第3チーム	第4チーム	第1チーム	第2チーム	第3チーム	第4チーム
作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能								身体障害作業療法学実習Ⅰ(◎)	身体障害作業療法学実習Ⅰ(◎)	身体障害作業療法学演習Ⅰ(上級)(◎)	身体障害作業療法学演習Ⅰ(上級)(◎)	在宅日常生活活動学演習(◎)	在宅日常生活活動学演習(◎)	総合臨床実習Ⅰ(◎)			
								動作解析学実習(◎)	動作解析学実習(◎)	身体障害作業療法学実習Ⅱ(◎)	身体障害作業療法学実習Ⅱ(◎)	余暇関連活動学演習(◎)	余暇関連活動学演習(◎)		総合臨床実習Ⅱ(◎)		
										精神障害作業療法学実習Ⅰ(◎)	精神障害作業療法学実習Ⅰ(◎)	仕事関連活動学演習(◎)	仕事関連活動学演習(◎)				
								発達障害作業療法学実習Ⅰ(◎)	発達障害作業療法学実習Ⅰ(◎)	身体障害作業療法学演習Ⅱ(中級)(◎)	身体障害作業療法学演習Ⅱ(中級)(◎)	応用地域作業療法学演習(○)	応用地域作業療法学演習(○)				
										身体障害作業療法学実習Ⅲ(運動器・内臓障害)(◎)		老年期障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)				
												高次脳機能障害作業療法学演習Ⅱ(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習Ⅱ(◎)				
												精神障害作業療法学演習Ⅱ(◎)	精神障害作業療法学演習Ⅱ(◎)				
												発達障害作業療法学演習Ⅱ(◎)	発達障害作業療法学演習Ⅱ(◎)				
保健医療における倫理的判断に基づいた行動力	教養ゼミ(◎)					平和科目(○)		地域実習(◎)				評価実習Ⅰ(◎)	職業倫理・職場管理学(◎)	総合臨床実習Ⅰ(◎)		卒業研究(◎)	
												評価実習Ⅱ(◎)		総合臨床実習Ⅱ(◎)			
医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力	教養ゼミ(◎)							地域実習(◎)		作業療法学研究Ⅰ(◎)	作業療法学研究Ⅰ(◎)	作業療法学研究Ⅱ(◎)	作業療法学研究Ⅱ(◎)	総合臨床実習Ⅰ(◎)		卒業研究(◎)	
												作業療法科学(○)	作業療法科学(○)				
												評価実習Ⅰ(◎)		総合臨床実習Ⅱ(◎)			
												評価実習Ⅱ(◎)					
医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度	教養ゼミ(◎)							地域実習(◎)				評価実習Ⅰ(◎)		総合臨床実習Ⅰ(◎)			
												評価実習Ⅱ(◎)		総合臨床実習Ⅱ(◎)			
科学的かつ創造的な問題解決能力	教養ゼミ(◎)			研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	地域実習(◎)		作業療法学研究Ⅰ(◎)	作業療法学研究Ⅰ(◎)	作業療法学研究Ⅱ(◎)	作業療法学研究Ⅱ(◎)	総合臨床実習Ⅰ(◎)		卒業研究(◎)	
							平和科目(○)	研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)				総合臨床実習Ⅱ(◎)		
				データサイエンス基礎(○)	データサイエンス基礎(○)							評価実習Ⅰ(◎)					
	情報・データ科学入門(◎)			ゼロから始めるプログラミング(○)	ゼロから始めるプログラミング(○)							評価実習Ⅱ(◎)					
	社会連携科目(△)	社会連携科目(△)	社会連携科目(△)	社会連携科目(△)	社会連携科目(△)							研究プロジェクト演習Ⅴ(△)	研究プロジェクト演習Ⅴ(△)				
	健康スポーツ科目(◎)	健康スポーツ科目(◎)	健康スポーツ科目(◎)	健康スポーツ科目(◎)	健康スポーツ科目(◎)												
	ヘルスサイエンスのための基礎数学(○)			統計学(◎)													
	大学教育入門(◎)																
(◎) 必修科目		専門基礎		専門科目		卒業論文		(○) 必修科目		(○) 選択必修科目		(△) 選択科目					

作業療法学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	研究室
桐本 光	教授	感覚運動神経科学
岡村 仁	教授	精神機能制御科学
砂川 融	教授	上肢機能解析制御科学
花岡 秀明	教授	老年・地域作業機能制御科学
宮崎 充功	准教授	生理機能情報科学
石附 智奈美	講師	作業行動探索科学
金子 史子	講師	精神機能制御科学
車谷 洋	講師	上肢機能解析制御科学
齊田 和哉	助教	精神機能制御科学
伊達 翔太	助教	生理機能情報科学
和田 峰子	助教	老年・地域作業機能制御科学